

会議録（要旨）

会議名称：第4回 上島町学校の在り方検討委員会

開催日時：令和7年8月24日（日）9:30～11:37

開催場所：せとうち交流館 多目的ホール

出席委員：15名

欠席委員：3名

事務局：学校教育課

会議次第：1 開会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 前回の確認について

(2) 統合場所について

(3) 今後の検討委員会の予定

4 閉会

1 開会

2 教育長挨拶

3 議事

(1) 前回の確認について

（事務局・B）

前回、「統合の形態」と「統合時期」について、各団体等への報告を依頼した。提言内容として「(A 小中を除く) 小学校1校、中学校1校を目指す」こと、「小学校は令和10年度、中学校は令和11年度の統合を目指す」ことを前提に「統合場所について」具体的なお意見をいただきたい。

（委員 M）

町内小学校1校統合案を受け、D 保育所保護者会では改めて話し合いの場を設けたり、アンケートを実施したりした。また、B 小と C 小の施設見学もした。D 地域から小学校がなくなるのは寂しいと感じる人は多い。しかし、今後の児童数の推移を見ると、児童数減少は避けられない。子どもたちには確かな学力を身に付け、多くの友達をつくり、そこで選べる人間関係づくりや、切磋琢磨することの喜びや大変さなど、小学校6年間で様々なことを経験し学んでほしい。これは子どもたちを大切に思う保護者の願いだ。今回の統合で、小学校が1校なるならば、どこかが残って、どこかがなくなるという考え方ではなく、新しい学校をスタートするという気持ちで臨みたいと考える保護者の思いがある。それらを踏まえた上で、令和10年度の統合案に同意し、統合を希望する。また、C 小の継続活用を希望する。また、校名を変更し、新たにスタートすることを求める。

（委員 J）

D 小学校も前回の委員会後、臨時保護者会を開き、D 小の校舎は統合後の校舎候補から除外されること、新設の可能性はゼロだということを説明した上で、保護者同士、意見を交わし、アンケートを実施した。「条件面での交渉を前提に統合を希望する」、「D 小校舎が利用可能な限り、単独校を希望する」が半数であった。大規模改修が行われないことを説明した上でも、D 小存続を強く希望する子ども、保護者がいた。未来の小学生、保護者である D 保育所保護者の意見に寄り添うことを了承を得ている。D 小としても、統合に向けての話し合いを進めていきたい。どこかがどこかに吸収されるのではなく、3 校で新たなスタートをして欲しいという意見が出た。ぜひ校名も新しくして欲しいという要望が多かった。

(委員 K)

B 保育所保護者会もアンケートを取りまとめた。小学校 1 校、中学校 1 校には概ね賛成で、時期に関しては、小学校は早期統合を希望されている意見が多数あり、中学校も同時期か早い時期でいいのではないかという声がある一方、中学校統合は、理由が明確ではないのではという意見もあった。

(委員長)

新たなスタート、校名も今後検討はしなければいけない。本検討委員会として、「(A 小中学校を除く) 小学校 1 校、中学校 1 校の統合を目指すこと」、それと「令和 10 年度小学校、令和 11 年度中学校の統合を目指す」の方向で進めるという意見が多いので、提言内容にその 2 点を確定して進めてよろしいか。

(各委員)

はい。

(2) 統合場所について

(事務局・B)

前回、小・中学校別に具体的に話をするべきではないかという意見をいただいた。ただ、小学校・中学校が一緒にあること、別々にあることのメリットやデメリットもあるのではないかという意見もいただいた。複合的に考えていいので、率直な意見をいただきたい。

(委員 A)

将来の子どもの在り方、育て方について、意見を述べたい。生徒数だけを考えて、複式のデメリット等を考慮した上で、統合という意見がまとまったと思う。ただ、その他の条件がクリアできたか問題である。場所を決める前に、様々な条件がクリアできるか考えるべきである。検討会であるから、様々な意見を出すべきだと思う。また、子どもを中心に考えると、通学、距離、交通手段もある。妥協も必要である。もっと条件を出すべきである。出身の島から学校がなくなるのが寂しいのは当たり前である。だが、将来の子どものため、妥協しなければならないというのが、この検討会の話し合いだと思う。安全面、施設面等をすべて検討しなければならない。

ただ、最近は経済面と進学が密接な関係にあるようになりつつあるとは感じている。親は、

教育費捻出のために自分が節約してでも、子どもの夢を達成させてやりたいと考えるのは当たり前だと思う。自治体も教育にお金をかける。統合したら経費が・・・という問題ではない。子どもの教育のために支出する自治体になって欲しい。そのための統合である。経費節減のための統合ではない。そうでなかったら、今の時代、通信関係が発達しオンラインで授業や仕事もできる。複式学級も個に徹した指導ができる、個を生かすということから考えて不備はない。複式学級でやっていこうという方向性を出している地域もある。ここは検討委員会だから、ここでの決定は最終決定ではなく、議会や教育委員会、町長の権限で最終的には決定することになる。もっと様々な条件をクリアして欲しいという要望書を作る気で話し合ってほしい。

私としては、小学生の体力面だけ考えると、橋で繋がっているのだから、誰が考えてもどこかは想像つくだろう。ただ、通学バスは必要である。親の望みではなく、子どもの望み、子どもの幸せを考えて意見を出し合って欲しい。

(委員長)

A 委員から、子どもにとって望ましい事柄に焦点を当てるべきとあった。子どもにとってという視点に立って検討をしていなければならない。統合場所についても大きな課題もあると思うが、そういう点を踏まえて、意見をいただきたい。

(委員 M)

D 保育所保護者は、令和 10 年度小学校統合には賛成である。ただし、C 小継続活用を強く希望する。C 小統合先とする主な理由の 1 点目は、D からの通学時間の負担を軽減できるからである。現在使用のスクールバス 1 台の利用を仮定すると、定員があるので D から 2 往復することになる。現在の時間を基に乗降時間を含めて考えると 1 往復当たり B 小で 40 分程度、C 小で 30 分程度かかることが想定される。通学時間の長さは、特に低学年には負担が大きいため、C 小を希望する。通学時間が長いことは日々の登校前の準備や下校後の習い事にも影響すると考える。さらに、体調不良時の送迎や緊急時、3 島の間地点に位置し、どの地域からも迎えに行きやすいことも重要だと考える。2 点目は、校舎が最も新しく、大きさも適切であると考え。D 小が耐用年数のために継続使用できなくなる以上、最も新しく長期に渡り使用できる C 小が最良だと考える。先日、C 小を見学し、今後、児童数の大幅な増加の見込みがなく、日常の管理や教育環境の維持、運営から校舎の規模も適切であると考え。以上のことから、C 小を活用することを希望する。

(委員 K)

B 保育所のアンケート結果を報告する。案 1 の B 小-B 中が約 70%、案 2 の B 小-D 中が 10%、案 3 の C 小-B 中が 10%、案 4 の C 小-D 中が 5%である。どのパターンでも、良い点悪い点、希望する条件を全部聞いた。B 小-B 中の良い面では、小中併設校で中 1 年に上がるときのギャップが少ない、先生同士・生徒同士の交流がある安心感等、教育面の安心感が挙げた。2 点目が、B 中の新しさや小学校施設の充実、小中まとめて施設を使える点と、どちらかに工事が入った場合、もう片方が使えるという相互作用などの施設面が挙げた。

保護者の送迎や防災時の利便性も挙げられた。1つに集約することで対応がしやすい。バス通学も、1ヶ所にまとめることで要望が叶えやすいのではないか。他の3案（B小-D中・C小-B中・C小-D中）は、地域バランスがいいという声と通学距離で、各10%程度であった。B保育所保護者としては、案1（B小-B中）だが、D地区・C地区の通学についてしっかり話し合い、安心して送迎できる環境を提示しないと難しいのではないかという声も多数あった。

（委員 J）

D小は、C小-D中を強く希望している。遠いことは死活問題である。小学校1年生が40～50分かけてB小に行き、児童クラブもどうなるかわからないが、仕事後40分かけて迎えに行きとなると、子どもも保護者も疲弊してくる。中間地点であるC小が私たちの願いである。

資料にある小中併設の場合は小・中学同行事が持ちやすいとあるが、現在、B小中で、一緒にしていることはあるのか。

（委員 H）

運動会は、1週間ずらして別々である。あとは、先生が兼任である。

（委員 P）

オープンスクールの時、距離的に見学しやすい。小中合同はない？

（委員 H）

細かいのはあるかもしれない。確認しておく。

（委員 J）

「県教委が進めている中学校教諭による小学校授業の兼務がしやすい」とあるが、D小でもD中の先生が来て授業している。子どもの通学時間を長くしてまで実施する必要があるのか疑問に思っており、子どもの体力を考えて通学時間を長くしてまでB小に行く理由があるのであれば、教えていただきたい。ここで話し合えばいいのか。

（事務局・B）

基本的にはそうである。

（委員 J）

ここに挙がっているメリットに納得いかない。

（事務局・B）

これについては、メリットともデメリットとも書いていない。教育委員会事務局の考えた1案である。

（委員 J）

小中別設が1点で、併設が2点というのが、納得できない。できたら2点ずつ出して欲しかった。

（事務局・B）

この場で検討して、挙げていただきたい。

(委員 E)

今小・保の保護者から意見が出て、参考になった。B 地区側か、D 地区側か、中間の C 地区か。住民の考え方では、距離についてどちらに行くにも遠いとの思い込みがあるのではないか。これは子どものためではない。40 分のバス移動はしんどいかもしれないが、おしゃべりしながらだと、大人が考える程ではないのではないか。今までなかったことをデメリットと捉えているだけでなく、メリットに捉えることもできるのではないか。また、D 保と D 小の保護者から C 小にとの意見が出ている。確かに中間地点でいいと思うが、子どものためを思うと、建物は確かに新しいが、運動場は B 小・中の半分以下。屋外で活動するには C 地区の町民のグラウンドもあるが、そこまで広くないのではないか。併設グラウンドがあるのが、子どもたちには一番いいのではないかと思う。通学に時間がかかるという意見が出ている。これについては、今後、子どもたちがどういうふうを考えていくか。バス運行は、令和 10 年度になると、100 人未満。50 人乗りのバス 2 台でいい。バスは教育委員会で考えると思う。

(委員 M)

グラウンドの広さについて、他地域では 200 人規模でも同じような広さのグラウンドを使っているところがあると聞いたし、検討委員会でも 1 学年 50 人いる時代にこのグラウンドを使っていたとのことなので、広さは大丈夫だと思う。

(委員 K)

教育委員会事務局に伺いたい。教育委員会事務局所有バスが 3 台で賄いきれない場合、増やすことは可能か。また、始業時間を 20～30 分遅らせるなどは可能なのか。

(事務局・B)

バスについては、今すぐに増やすとは言い切れない。町有バスの活用も含めて、具体的な場所が定まり次第、検討していく。始業時間については学校長判断ではあるが、教育委員会も助言する。具体的な場所が決まり次第、準備委員会等を立ち上げなければならない。そこで協議する議題と考えている。

(委員 E)

終業時間は、小学校も中学校も同じか。

(事務局・B)

小学校 45 分の授業で最大 6 時間、中学校は 50 分授業で最大 6 時間。

(委員 E)

いや、下校時間は小学校が何時、中学校何時なのか。

(事務局・B)

1 日の授業等すべてが終了した段階で、帰りの会をして下校ということになる。

(副委員長)

少し早い D 小で、15 時 15 分に終わりの会が終わっている。

(事務局・B)

他の小学校は大体 15 時 40 分とか 45 分には下校である。

(委員 E)

16 時にはどの学校も校ができると考えてよいか。

(事務局・B)

その通りである。

(委員 E)

小学校の放課後の運動は、任意のものか。

(事務局・B)

その通り。課外活動である。中学校でいう部活動であるが、小学校は通年ではない。季節によって種目等が変わり、高学年を中心とした希望者でやっている。

(委員 E)

希望制で強制ではないということか。

(事務局・B)

基本的にはそうであるが、現在、参加児童の方が多いという感じである。

(委員 E)

下校時間は 16 時頃となり、バスで帰ったとして 30～40 分としても、17 時前に自宅近くまで帰れる。

(事務局・B)

課外活動はあるが…。

(委員 E)

課外活動は強制ではないということで間違いないか。

(事務局・B)

その通り。

(委員 E)

バスの時間が大体 40、50 分で、子どもたちの負担も 1 時間以内であれば、そこまでではないのでは。保護者共働きだと、17 時以降に帰宅する。その少し前に子供たちは帰宅することになる。C 小にした場合、中間ではあるが、バスの時間は大きくは軽減されないのではないか。30 分はかかると思う。すべてのものが子どもたちに有利になる場所の選定をすべき。D 保育所保護者から、C 小運動場の大きさが十分であるという意見があったが、広い程子どもたちが遊びやすい。建物も、D 小は耐用年数が来ているが、B 小は丘の上にあり、避難できるので最適な場所ではないか。また、併設であるので中学生がグラウンドを半分使っており、その姿を見るのは利点があるのではないか。

(委員 P)

行き帰りのバスの時間とか方法について、子どもの負担というのは、どの地域も心配の大きな要因の 1 つだと思う。自分の経験では、260 人ぐらいの私立幼稚園でスクールバスが 5 台あって、1 便当たり 50 分から 1 時間を 30～40 人乗せて毎日運行していたが、思いの他、

行きの 30 分ぐらいは、とても元気である。帰りはかなり疲れていて、半分ぐらい経ったら寝ている。寝る体制によっては、転げ落ちたりするので、年度初めなどは、添乗・見守りが 1 名同乗する方がよい。体調不良で嘔吐等、懸念される材料は、人数と時間が増えることで多くなると思われるため、年度初めは手厚く配慮が必要だと感じている。子どもが小さいときは、大人の力が必要である。始業時間を遅らせるところは賛成である。朝少しでも余裕ができればいいと感じる。

(委員 Q)

グラウンドは、広さだけを重要視せずに、活用できる広さ、十分に手入れの届く範囲で、学校教育に利用できる広さがあれば、問題ないと感じる。C 小は過去に現在より多くても、問題なかったと聞いているので、D 地区、B 地区、F 地区の中心部である C 小の選択肢もよいのではないか。

(委員 J)

D 保も D 小も C 小統合希望である。文部科学省の通学時間に係る児童生徒の心身の負担についてのアンケートによると、小学生では、30 分を超えると心身ともにストレスがかかってくるのが顕著だと発表されている。通学時間をなるべく少なく、子どもの負担のないように、子どものことだけを考えると、C 小ではないかと考えている。スムーズに通学できるのは大事で、保護者、子どもに負担ないように通学できる環境を最優先にして欲しい。近いことを侮ることなく、私たちの意見にも寄り添っていただきたい。

(委員 C)

副委員長に質問である。特別支援学級には複数の教室が必要と聞いた。C 小に統合となった場合、人数も倍近くになるが、その点はクリアできるか。

(副委員長)

特別支援学級は 1 クラスの上限が 8 名である。1 クラスの人数がそれを超えるようであれば、2 クラスに分けなければならない。障がい種別による。

(委員 C)

種別が一緒の場合に、その人数が関係してくるということか。

(副委員長)

その通りである。

(委員 C)

4 教室があれば、対応できるか。

(副委員長)

今の状況で同一種別で 2 学級必要かどうかは不明である。

(事務局・B)

今すぐに正確な人数は準備不足で明言できない。種別によって各 8 名以上でクラスを分ける必要がある。上島町の特別支援学級の種別は現在、身体病弱クラス、知的クラス、自閉症・情緒クラスの 3 種類である。ただ、今後、他の種別の児童生徒が入学して、希望して認

められれば、他の種別のクラスも必要にはなってくる。

(委員 C)

聞くところでは B 小は教室が多く、開いている教室もあるとのこと。そうであれば、B 小がいいのではと思うが、この点がクリアできれば、C 小でもよい。こういう点も頭に入れて決めていければと思う。今、G 地区から B 小・中に通学をしている子どもたちがおり、今のまま B 小・中に船に乗ってスムーズに通学できれば、少しは安心できるのではないか。

(委員 L)

今、小学校の話が中心になっているが、例えば、B 小を選んだが、D 中になったら、連携はできない。先に中学校を決めると方向性が見やすいのではないか。中学校で何か思うところはないか。

(委員 Q)

D 中はアンケート等は取っていない。ただ、個人的には、生徒数を確保し、多い人数で、教育すべきだと思っている。統合に関しては、中学校 1 校で、施設・規模を考えれば、B 中が妥当ではないか。通学は、中学生は体力もあるので。生徒数が増えれば、部活動の選択肢も増える。今、D 中の野球部は今治地区 3 島との連合である。B 中にはサッカー部もある。選択肢が広がり、子どもたちも打ち込めると思う。

(委員 J)

D 小は、C 小・D 中を希望している。メリットを考えたときに、D 小は子どもと地域との関わりを残したいという思いが強い。D 小がなくなるならば、D 中を残して欲しいという意見があった。C 小や B 小に統合しても、また戻ってきてほしいと思っている。D 中のメリットとは何か。バスが入りにくい等デメリットはあるが。

(委員 Q)

デメリットばかりが目について…。メリットとしては、歴史があること。

(委員 J)

D 小がなくなるときに、地域の関わりは、D 中、D 保育所だけになる。子どもが小さいときから、地域の人に助けられて野球をやっているという背景があるので、それも大事にしたい。地域の関わりを残したいという思いだけで、D 小は D 中を希望している。個人的に、各教室からの眺めがいいのがお勧めである。思春期の子どもたちにとっては、心穏やかに学びができる場所である。

(委員 K)

B 保育所保護者からは、D 小がなくなったときに、グラウンドは使えるのではないかといい意見があった。いろいろな遊具があり、フィールド自体がいいので、サッカーや野球を思い切りできる環境ではある。D 中は、通学のときにバスが入りにくいとの意見もあった。

B 保育所保護者として、中学校廃合は賛成で前向きな意見が多いが、やはり中学生も小学生と関わることでいい影響があると感じる。併設校というのは推されていた。B 中校舎が比較的新しいので活用すべきとの声もあるが、中学校統合に関して、小学校のように複式等危

機的な状況ではないので、統合をどう思っているのか中学生の意見を聞くべきではないか。

(委員 P)

そのアンケート対象は保護者か。

(委員 K)

両方がよい。中学生と話す機会があったが、自分たちが子どもの頃と全く違うように感じた。自分たちの標準で統合を決めてしまうとギャップが出て、不登校が増える等の心配があるので生徒に聞いてみたい。これに関して在り方検討委員会で話し合うべきではないかと思う。

(委員 L)

先程、D 中を推す理由は特にないという話であった。C 中は約 20 年前に統合してなくなった。地域性とか地域との密着は当然大事であるが、今でも C 地区は連携が取れている。学校があるから連携が取れるのではなく、連携を取ろうと思えば取れる。

学校に求めることが、勉強のみではなくて、人間関係であり運動である。すべてを加味すると、中学校は B 中の方が施設的に素晴らしい。エレベーターがあったり、体育館、運動場も大きい。これを使わない手はないのではないか。ただ野球部も活動できるグラウンドは確保して欲しいと思う。C 小は、グラウンドが小さい。運動会の時には実感する。高学年になると、トラックの円を描いても一生懸命走ることができない小ささである。B 小というよりは、B 中の施設を使う前提でいくというと B 小という選択肢が一番いいのではないかと個人的には考える。

(委員 I)

C 小は、当初から B 小-B 中を希望している。グラウンドは、確かに自分達に通っていたときは、あそこでできなくなかなかったが、それはそこしか選択肢がなかったため、今、B 小中という選択肢がある中で、わざわざ C 地区を選択する必要はないのではないかと思う。

(委員 H)

B 小でも 4 つのパターンでアンケートを取った結果、B 小-B 中が多かった。理由としては、地元だからという意見もあったが、それよりも学校の施設、規模、新しさ、小中の連携、町庁舎・消防署があるという理由があった。登下校の負担を考えると、地理的に中間地点の C 小がいいという意見もあったが、B 中の建物が珍しいので魅力が発信することで、子育て世帯の移住を増やす流れになるのではないかという意見もあった。また、通学バスを小さくして台数を増やし、地区ごとに乗せていく等の工夫が必要ではないかとの声が多かった。安全性や利便性を考えた登下校の工夫をしていただきたい。

(委員 P)

中学校の統合について、部活を考えたときにどこになったとしても、部活の種目を現在の数だけ確保する見込みで話を進めていくのか。それとも、教員が足りないから、部活動の統廃合も起こるのか。地域では部活動の在り方検討委員会が開催され、地域に移行していく流れがある。保護者に説明するにあたり、部活動は現状維持されると説明してもよいのか。

(事務局・B)

部活の種類、数につきましては、教育委員会事務局で決めるものではなく、学校活動の中の1つなので、学校で決めるものである。望んでいる子どもたちがいるのであれば、学校としては、その方向性は持つのではないか。しかし、児童生徒数は確実に減ってきているので、今後どうするかは、その時に考えていかなければいけない課題である。

(副委員長)

中学校が1校になった場合、学級数が変わらない限り、教職員の数は大きくは変わらない。子どもたちの安全性を考えると、すべての部活動を確保するのは、なかなか難しい。そうなったときにどれだけ地域の協力があるか、そのときに話をしていかなければいけない。

今ある、B中とD中一緒に部活はいいが、一方しかないものが結構あるので、統合したときに部活の数が増えると、できる限りのことは教職員もするが、絶対とは言いきれない。地域の方に力を貸していただきながら、どのようにしていくか相談していきたい。

(委員E)

安全性について付け加えたい。D中は支所の上の方にあり、バスが入らない等交通面で不便な部分もある。もう1点、中学校のグラウンドの下に水路を設置している。過去にこの水路が詰まり、下の方で噴いた。現在は上部に砂止めを作り、災害が起こりにくいようにしている。この水路に物が中入らないように蓋をしているが、上から流れてきた瓦礫が詰まり、運動場に溢れる可能性もある。D中は、大雨等の災害ときに気にしなければならない。避難所になっているが絶対安全ではない。これはどこも同じである。高波だったらB中も浸かる可能性がある。そういう面も踏まえて、協議するとよい。

(委員K)

B小体育館が避難所であり、B小が海拔6mに校舎があり、津波も地震も台風・高潮も豪雨土砂も避難場所になっている。今唯一、学校で全部の項目にチェックがついているのがB小体育館である。B中は低いので、中学生は小学校に移動するようになると思うが、B小体育館は避難所になってるので、寝泊まりも備蓄もあり、地区の人たちも避難するようになる。

(事務局・B)

避難所に関しては、配付している資料に掲載している。すいません、今、K委員が述べたことも全て記載済みである。

(委員K)

G地区の児童生徒が、B小中に通っているが、D中やC小に統合になったときには、特別な対応が必要になる。

(委員長)

統合場所について、B小-B中、B小-D中、C小-B中、C小-D中の4パターンが示されているが、B小-B中の意見が多い。その辺りに焦点を絞って、意見はないか。

(委員M退席→代理委員N)

B小-B中のメリット等、聞くことができてよかった。D保としては保護者のほとんどが

C 小と、中学校は B 中と D 中が半々で、この場で、B 小-B 中で話し合いを進めていくかどうか判断しかねる。ただ、今回の話し合いの中で B 小のメリット等を持ち帰り、次回までに必ず、話をしてきたと思っている。この話を続けつつ、持ち帰らせていただきたい。

(委員 J)

今回も D 小も持ち帰らせていただき、もう一度保護者で話をさせていただきたい。やはり遠いということが死活問題である。もう一度、条件面を細かく決めていきたい。今日決めることはできない。

(委員 B)

令和 10 年度小学校、11 年度中学校統合で、教育委員会事務局として、いつまでにこの話を決めるべきなのか。

(事務局・A)

前回もお答えしたが、10 年度統合ということであれば、学校との調整等準備していくことが多々あるので、せめて今年中には結論を出していただきたいと考えている。

(委員 B)

今年度ではなくて、今年中というか。となれば、早めに結論を出さないといつまでやっても同じである。10 年度、11 年度を過ぎてしまうと、また複式学級の問題等が出てくる。できる限り早く、決を採った方がいいのではないかと思います。

(委員 J)

決を採るのは最後にしたい。

(委員 B)

その最後を早く決めて欲しい。決めた方がよい。

(委員 J)

命がかかっているので、簡単に決めることではないことも知っていただきたい。保育所の統合問題もそうであったが、D 小がなくなるので皆の意見をまとめながら、一致団結して頑張っている。少し寄り添う気持ちを持ってこの会に挑んでいただきたい。くスピーディーに考えていきたいとは思いますが、子どもの命を預かって考えているところであるので、子育てをしているときを思い出して考えていただきたい。

(委員 I)

持ち帰りしたいという意見が出ているが、持ち帰ってどれぐらい話をされているのか疑問である。もちろん統合について、いろいろな希望が保護者から出ると思うが、すべてを叶えることはできない。だから、その中でも絶対譲れないものを意見として出すとか、もし希望かなわなかった場合はどうするのか等詳しく話していただけているのか疑問に思っている。C 小では、自分たち意見が通らなかった場合を見据えて話をしている。

(委員 J)

D 小もしっかり臨時保護者会を開いて、胃をキリキリさせながら、子どもたち保護者のために頑張っている。もう少し寄り添っていただきたい。

(委員 L)

C 地区は小学校がなくなるのを前提で話を進めている。皆同じである。C 小は、スクールバスを使ったことがない。子どもの命云々、スクールバスの運転手に対して、言い過ぎではないか。言い方を控えていただきたい。持ち帰って話すのであれば、資料にも度々出てくる地域感情など無視して、子どものことを優先で話し合っていたいただきたい。地域感情を入れたら誰だって地元がいいし、近い方がいいし、バスが危険で子どもの命が・・・、それらを言い出しすと、どこのエリアも同じで、自分たちさえよければいいという考えも止めて、ちゃんと前向きに話し合ってきて欲しい。

(委員 K)

私は、D 地区の気持ちを尊重したい。整理がつくのは少し時間がかかると思う。12 月までに決めて、クリアすべきことも答申には書くということであるが、事務局が最初に言った、準備委員会を今後立ち上げていくのであれば、在り方検討委員会でどこまで決めたいのかわからない。

(事務局・A)

適正配置について検討をしていただいているので、最低限統合の形態、時期、場所を提言内容にまとめていただきたい。

(委員 K)

最初にお願した中学生のアンケートを次回までに取れるかと思うが、いかがか。中学校のアンケートが取れば、話も進むと思うが。

(委員 L)

今の中学生は統合時には卒業している。

(委員 A)

個人的な考えではあるが、今年中にいうことであれば、教育委員会、議会、町長の決断の期間を考えなければならない。もう 1 点、学校側では職員の配置異動等々全部考えなければならない。12 月で人事異動の原案・たたき台を作らなければならない。もう少し早く、動いて欲しかった。今、取り組んでいるコミュニティ・スクール等を使って活発に考えるべきである。学校は地域があって成り立つ。親が反抗したら学校は成り立たない。今まで、いろいろ応援があったと思う。残る日にちは少ない。効率よくいい方向を出して欲しい。皆自分の利害があると思う。いろいろな条件があるが、自然環境、自然災害も頭に入れておくべき。保護者が一番関わっている年代だと思うが、知っていることは全部出せたか。

(委員長)

統合場所について、4 パターンが提示されているが、持ち帰って云々という意見あった。教育委員会事務局、いつまでか。

(事務局・A)

早いうちに決めていただきたいという気持ちはあるが、教育委員会事務局からは提示しにくい。今回、持ち帰りということであれば、しっかりまとめていただき、次回、議論を深

め、決める方向に持って行っていただきたい。スクールバス、送迎等意見を出していただくには、構わない。また、答申、提案書に盛り込んでいただくことも構わない。ただ事務局の方からも述べたが、この検討委員会で答申がまとまった後、統合準備委員会的なものを設置して、校名、校歌、校章、制服、スクールバス、様々なことをさらに詰めていく必要がある。そういう期間もいただきたい。令和 10 年度ということであればあと 2 年ちょっと。細かなことも教育委員会事務局として詰めていく必要があるので、なるべく早い決断をしていただけたらと思う。

(委員 P)

アンケートの件だが、現中学校親子は当事者にならないが実施するのか。その場合、該当学年の子どもにアンケートを取ることは考えないのか。貴重な子どもの意見を集めることはできるが。

(委員 J)

小学生になるが、保護者だけか。

(委員 K)

現中学生も、例えば、「統合していたらよかったか」とか、「学生時代にもうちょっとこういうことをしたかったか」、「人数が多い方がよかったか」「今、中学生生活でやっぱり統合した方がよかったのか」とか。

(委員 P)

その項目は、中学校同士で合わせるべきだと思うが。

(委員 K)

本来、アンケートは、在り方検討委員会として取るべき。今回は各 PTA で個々にアンケートを取ってしまった。本来は合わせて、在り方検討委員会として、ここで項目を検討してすべきだと思う。

(委員 P)

B 中と D 中に項目や締切を伝えるのは、私たちが決めるべきことなのか、学校に振っていいのか、それとも教育委員会事務局から出すのか。

(委員 K)

今のところは P T A と保護者会等で決めているので、B 中と D 中で質問のギャップがなければいいと思う。

(委員 P)

すり合わせが必要なので、中学校の P T A 同士で時間をとって決めるのか。

(委員 K)

それでもよい。必要であれば個人的に入りたい。できることは手伝いたい。

(委員 P)

次回開催に合わせて集めるのが開催直前では困る。統計を取って、データ化しないといけないが、次回開催時期は決まっているか。

(事務局・B)

アンケートでは、何を聞くのか。統合すべきかどうかは聞かなくても、この会での確認事項として、令和10年度、11年度で統合するところまでのコンセンサスは本日取れたと考えるが。今ここで議論になっているのが場所についてだが、また議論を戻すか。

(委員 K)

場所についても聞いてもいいし、中学生の答えが、準備検討委員会等で中学生の意見も反映することができると思う。

(委員 L)

それはその時でよくないか。

(委員 K)

その通り。

(事務局・B)

それであれば、次回までにぎりぎりで考える間もなくアンケートを取るよりは、ある程度の結論が出てからでよくないか。

(委員 K)

ここから先で困ることややって欲しいことについて中学生に意見を求めたい。中学生を置いていっている感じがもったいないと思う。

(委員 E)

中学生の意見が必要か。

(委員 L)

必要ないのではないか。

(委員 K)

要・不要を検討委員会で決めればよい。せっかくいろいろなことを考えて学生生活を送っていると思うので。

(委員 E)

中学生が統合に反対したときは、それをそのまま出してくるのか。突拍子もない意見も出ると思うが。

(委員 K)

その通り。

(委員 E)

どうしてもこの会で中学生の意見が必要なのか。

(委員 K)

必要だと考える。今まで中学生には取ってないので、それもおかしいなと思う。

(委員 P)

子どもに取ったということか。

(委員 K)

ここでは親に取っている。前回（第Ⅰ期）の在り方検討委員会でも小学校の高学年に対して取っているだけである。低学年等には聞かなくていいと思うが、中学生や小学生はいろいろと感じるところがあると思うので、そこには聞いてもいいのではないか。

（委員 E）

各学校で必要であれば聞いて、出してくるのはいいと思う。それを参考資料として捉えるべきだ。PTAが聞いて、意見を提案するのはいいと思う。

（委員 K）

了解した。

（委員 E）

これから先の児童生徒数の推移を教えてください。あと、4、5年分が欲しい。

（事務局・B）

小学校は6歳入学なので、これ以上はわからない。中学分は現在の数を最大限記入している。

（委員 E）

10年度、B小自体で55人。C小・D小で53人、同人数である。表の下の括弧が複式で間違いないか。

（事務局・B）

括弧の中の数か。

（委員 E）

いや、括弧でくくっている部分は、複式学級になるということか。

（事務局・B）

その通りである。

（委員 E）

C小とD小が一緒になった場合、令和11年から複式学級は解消されるのか。

（事務局・B）

11年度のC小とD小か。

（委員 E）

その通り。

（委員 L）

検討する必要があるのか。小学校を1校化するのだから関係ないにのではないか。

（委員 C）

C小とD小の統合はない。小学校1校で決定している。今は場所を検討している。

（委員長）

統合場所について、いろいろ意見が出されたが、持ち帰り、次回決める方向でよろしいか。

（各委員）

はい。

(委員長)

防災、スクールバス等についても、詰めて提言の方向に進めていきたいが、よろしいか。

(委員 C)

次回意見を出して、10 月には採決しないか。

(委員 A)

次回には結論が出ないと、議会に提案できないのではないか。

(委員 C)

本当は 9 月で出したいが、最悪 10 月には決定しないといけないのではないか。9 月に開催予定か。9 月に多数決ができればベストである。

(委員 D)

答申書には、いろいろな意見があったと出るはずである。いろいろとあげておくとよいか。

(委員長)

9 月に決めるぐらいの方向で進めていくということでよいか。

(委員 E)

小学校は C 小か B 小かという考え方でよいか。

(委員長)

その通りである。事務局、それでよろしいか。

(3) 今後の検討委員会の予定

(事務局・B)

今回は学校の運動会がそれぞれの地区で行われる予定で、9 月 28 日（日）だけが空いている。場所は D 支所 2 階である。正式な案内は準備でき次第発送する。

今回は、場所を具体的に決めるとともに、答申案の検討もしていただきたい。配付するのはギリギリになると思うが、協力願いたい。

5 閉会